

## 2. 事業の効果及び必要性

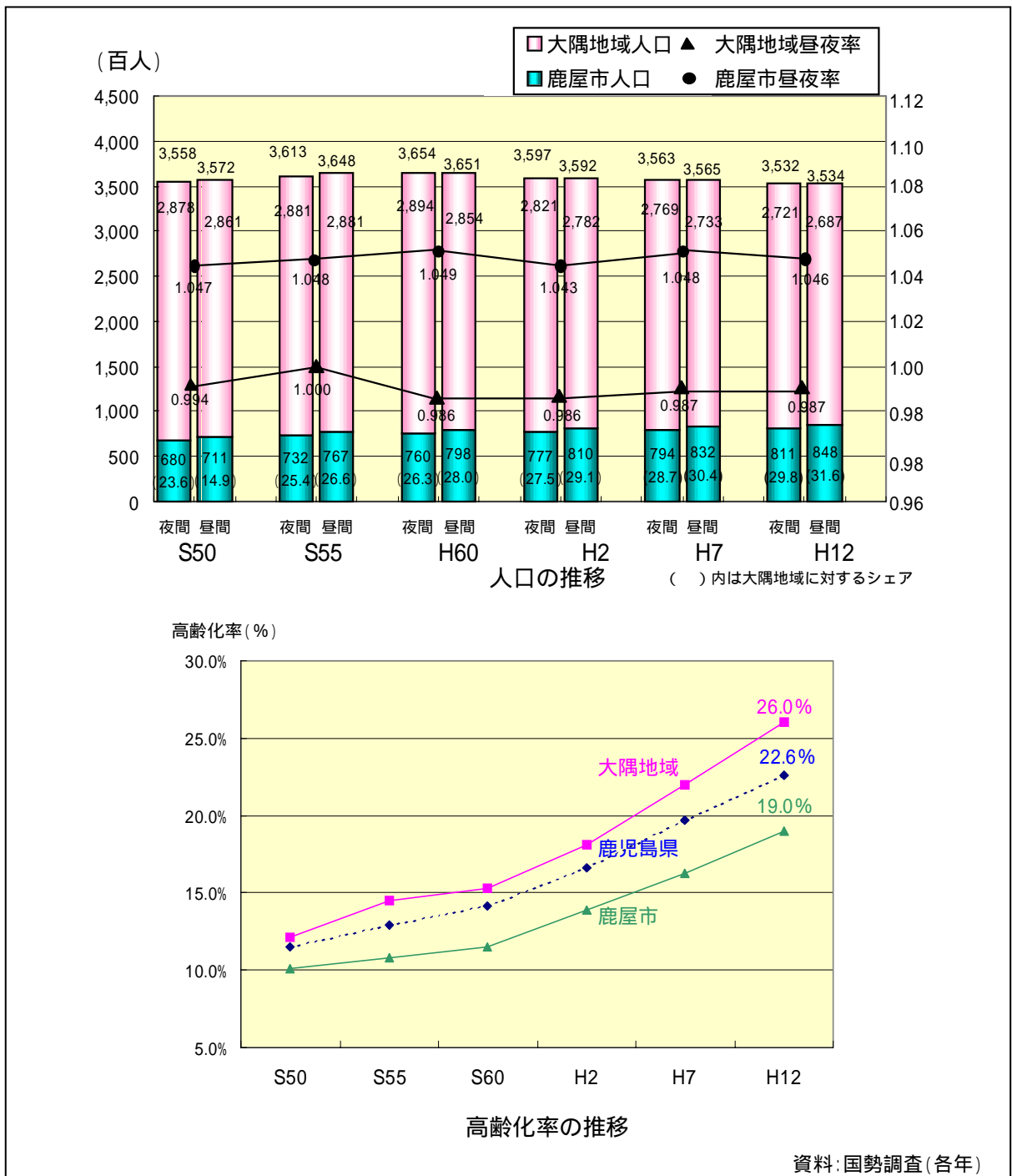
### 事業を巡る社会情勢等の変化

#### (1) 対象地域の概況

##### a. 人口[鹿児島県の中でも都市活力を維持する鹿屋市]

大隅地域の人口が年々減少傾向にある中で、計画路線の位置する鹿屋市では人口が着実に増加しており、昼夜率も1.0以上を維持している。

また、大隅地域の高齢化が急激に進行している中で、鹿屋市の高齢化率は19.0%と低水準にあり、地域の中心都市として都市活力を維持している。



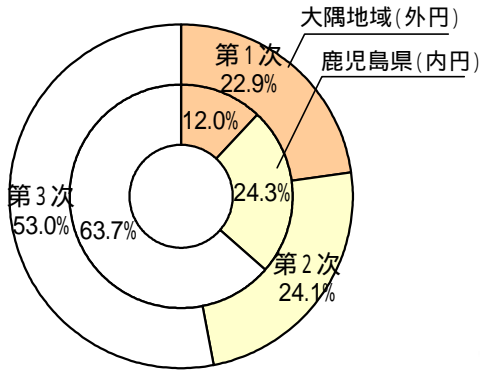
b. 産業〔全国の台所を支える大隅地域〕

鹿児島県は農業粗生産額が九州1位、全国でも4位と農業の盛んな地域であり、主要な農産品は全国的にも上位を占めている。なかでも大隅地域は農業従事者が多く、第1次産業人口の割合が22.9%と高い。農業粗生産額は鹿児島県の約4割を占め、特に畜産では全国的にも有名な黒豚等、生産量は鹿児島県の約半数を占める。

近年、九州縦貫道やその他高速道路等を介し、福岡方面等への農産品出荷量が15年間で2.75倍(H7/S55)となるなど、全国大都市への出荷が大幅に増加している。

産業別人口割合

資料: 国勢調査(H12)



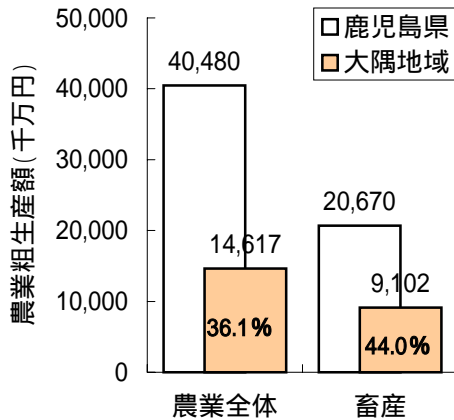
鹿児島県の農業粗生産額の上位農産物

県内順位	農産物名	農業粗生産額	全国順位	全国シェア	備考
1位	豚	672(4,921)億円	1位	13.7%	2位 宮崎
2位	肉用牛	580(4,725)億円	1位	12.3%	2位 北海道
3位	プロイラー	400(2,407)億円	3位	16.6%	1位 岩手
4位	米	276(23,253)億円	28位	1.2%	1位 新潟
5位	茶(生葉)	246(1,119)億円	2位	22.0%	1位 静岡
6位	鶏卵	206(4,199)億円	4位	4.9%	1位 茨城
7位	かんしょ	151(985)億円	3位	15.3%	1位 千葉
8位	さとうきび	127(288)億円	2位	44.1%	1位 沖縄
9位	葉たばこ	118(1,172)億円	2位	10.1%	1位 宮崎
10位	ばれいしょ	91(1,306)億円	3位	7.0%	1位 北海道

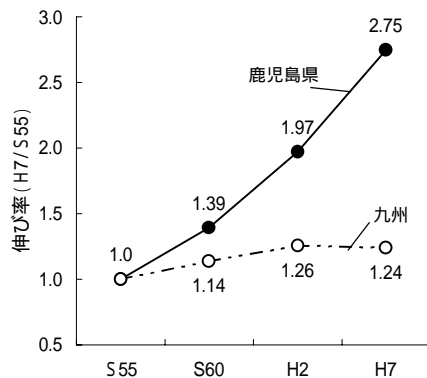
(資料: 鹿児島県農林水産情報センター)  
( ) 内は全国の合計

農業(畜産)粗生産額の比較

資料: 鹿児島県農林水産情報センター



福岡中央市場への出荷量の伸び



資料: 福岡市中央卸売市場年報



資料: 鹿児島県農林水産情報センター

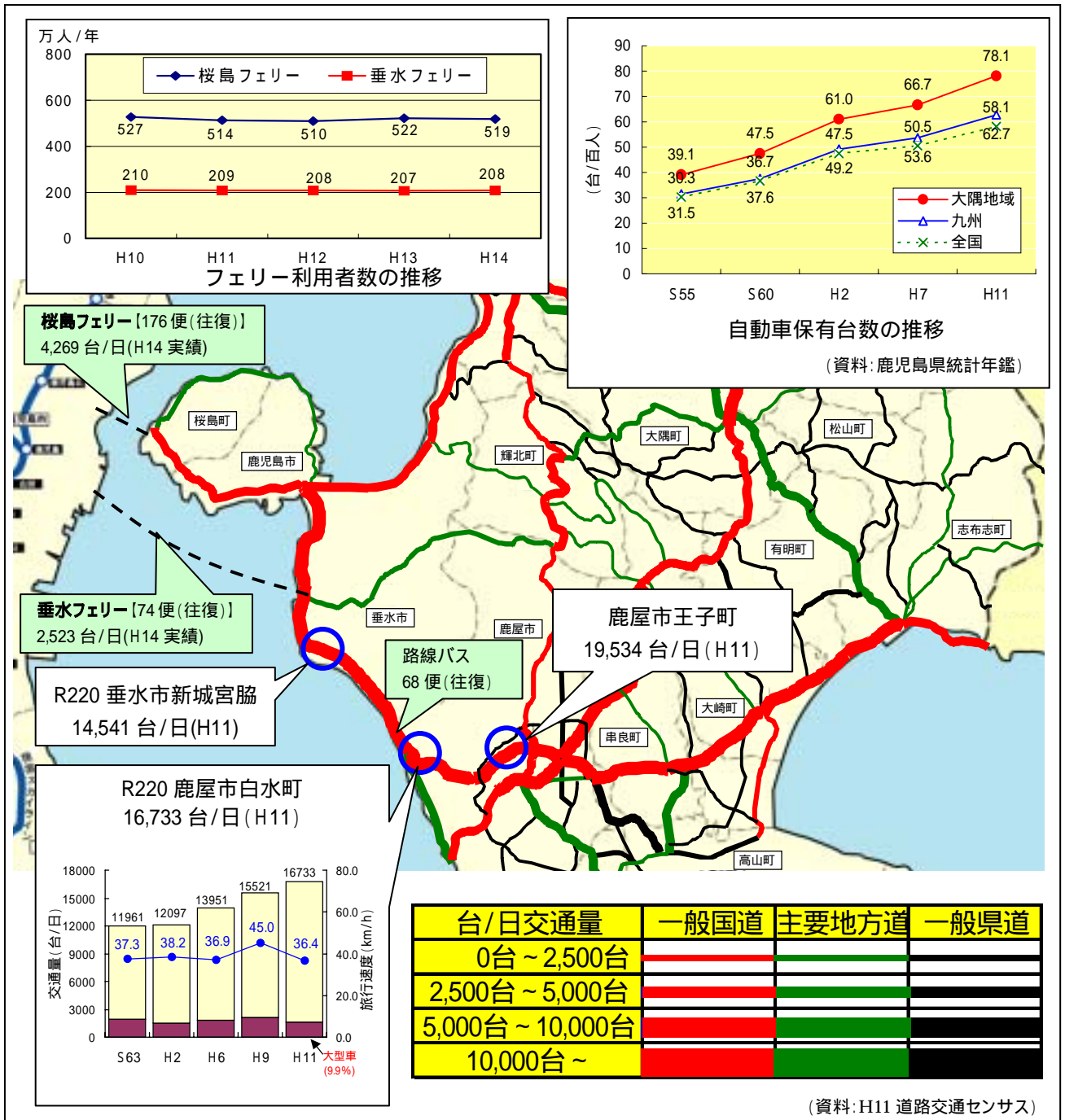
大隅地域の粗生産額が鹿児島県全体の3割を超え、かつ大隅地域の1割以上の生産額を占める農産物の種類、鹿児島県全体の過半数以上のシェアを占める品目

c. 交通 [自動車への依存が進行]

大隅地域の自動車保有台数は78.1台/百人であり、全国平均(62.7台/百人)に比べ約1.3倍と自動車の保有率が非常に高い。

当該地域の公共交通機関は、昭和62年国鉄大隅線が廃止されて以来、路線バスが主体であり、国道220号のバス運行本数は片道34本/日(鹿屋市-垂水市間)と多く、バス交通の幹線軸となっている。

こうした自動車需要の高まりから、国道220号は地域交通を支える幹線道路として重要であり、対象区間では約1万7千台/日と交通量が多くみられる状況にある。



道路ネットワークと交通量

d. 通勤・通学流動、交通流動 [鹿屋市を中心とした人流・物流]

通勤・通学流動をみると、鹿屋市が大隅地域の通勤・通学流動の中心となっており、周辺市町村との日常的なつながりが強い。

また、物流と関連の強い貨物車の交通流動をみると、鹿屋市から鹿児島あるいは九州全域へ約 73 百台/日の交通流動があり、物流面での結び付きも強くみられる。

通勤・通学流動



資料：国勢調査（H2、H12）

貨物車交通流動



資料：道路交通センサス（H6、H11）